

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	253人	社会	253人	数学	253人
	理科	253人	英語	253人		

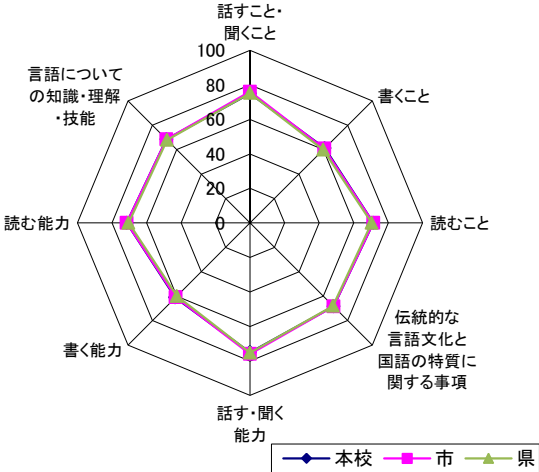
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	75.0	76.0	75.2
	書くこと	61.2	60.9	59.9
	読むこと	71.4	71.4	70.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.4	68.5	68.0
観点	話す・聞く能力	75.0	76.0	75.2
	書く能力	61.2	60.9	59.9
	読む能力	71.4	71.4	70.4
	言語についての知識・理解・技能	68.4	68.5	68.0



★指導の工夫と改善

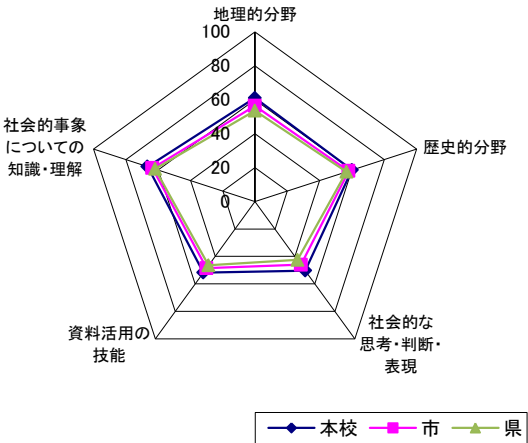
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話を聞いて、自分の考えとの共通点と相違点を整理する」設問では、県平均を2.8ポイント、市平均を2.4ポイント上回っている。 ●この領域の正答率は、県平均を0.2ポイント、市平均を1.0ポイント下回っている。特に「分かりやすく伝えるために話の構成を考える」設問での正答率は、県平均を4.5ポイント、市平均を4.4ポイント下回っており、話を分かりやすく伝えることが苦手な傾向にある。	・授業でペアやグループでの話し合い活動を取り入れるようにしているため、「聞く力」はついてきている。今後は、授業や生活の中で、より分かりやすく相手に伝えるために、話の構成を意識した話し方ができるように工夫した授業展開に努めたい。
書くこと	○正答率は県平均を0.3ポイント、市平均を1.3ポイント上回っている。特に、「話し合いの内容を参考に、提案することをまとめて書く」設問では、県平均を3.5ポイント上回っている。 ●「話し合いの内容を参考に、提案することをまとめて書く」記述式の設問での正答率が低く、無回答率が県平均を0.9ポイント、市平均を2.0ポイント下回っていることから、書くことははじめから諦めてしまう生徒が多いと推測される。	・書くことに苦手意識を持っている生徒には、文章の構成やパターンを提示し、そこから文章を書く練習をさせるなど、苦手意識を払拭できるような指導の工夫をしていきたい。
読むこと	○正答率は県平均を1.0ポイント上回っている。特に、「文章中の語句が指す内容を捉えて読む」設問では、県平均を4.5ポイント上回っている。 ●「文章中の空欄に入る接続語を選ぶ」設問では、県平均を6.6ポイント、市平均を7.0ポイント下回っている。	・朝の読書はもちろんのこと、休み時間にも読書をする生徒が多いので、今後も読解力が身に付くよう、読書指導を一層充実させたい。 ・接続語をうまく使うことができない生徒が多いので、説明文の読解では、接続語を意識させた上で構成を捉え、丁寧に読み取っていくよう指導していきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「熟語の組み立て」に関する設問では、県平均を7.0ポイント、市平均を4.1ポイント上回っており、知識の定着が見られる。 ●歴史的仮名遣いに関する設問では、県及び市平均を4.0ポイント下回っており、生徒の理解が二極化している。	・漢字テストと漢字練習を今後も定期的に行い、特に漢字の書き取りの定着を図りたい。 ・歴史的仮名遣いなど、昨年度の内容が定着していない生徒がいるため、基礎的・基本的な知識をしっかりと個別指導をしていきたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	61.0	56.4	53.5
	歴史的分野	60.0	58.0	56.6
	社会的な思考・判断・表現	50.4	46.1	42.5
	資料活用・技能	51.9	48.6	46.5
	社会的事象についての知識・理解	66.6	63.6	61.9



★指導の工夫と改善

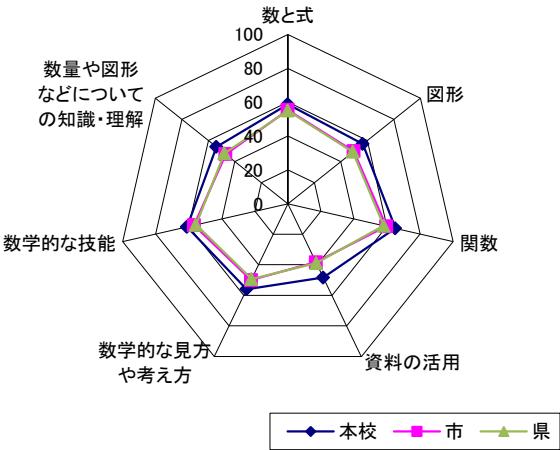
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○正答率は県平均を7.5ポイント、市平均を4.6ポイント上回っている。特に、「世界各地の人々の生活と環境」と「世界の諸地域(南アメリカ州)」に関する設問の正答率は、ともに県平均を10.1ポイント上回っている。 ○どの分野も、基礎知識は身に付いている。特に「世界の地域構成」における大陸の名称や、「南アメリカ州」の川の名称に関する設問では、正答率が8割を超えている。 ●「発問に合う適切な地図を選択し、示された地点の方位がわかる」の設問における正答率は、ほぼ県平均と同じだが、市平均からは2.2ポイント下回っている。 ●「適切な資料を読み取り、それをもとに変化や理由を考察し、表現する」記述式の設問では、正答率が県平均、市平均ともに上回ってはいるが、基礎知識を問う設問と比較するとポイントが低く、思考力・判断力を問う設問を苦手としている傾向がみられる。	・各単元において、教科書の重要語句や授業内容をまとめたノート、ワークブックを再度見直しさせるなどして、基礎的・基本的な事項の定着をさらに図りたい。 ・資料や地図帳、ICT活用などを工夫し、資料を読み取る力を付けさせる。また、資料から読み取った内容を個人でノートにまとめたり、グループでの話し合い活動を積極的に取り入れたりして、思考が深まるよう努めたい。
歴史的分野	○正答率は県平均を3.4ポイント上回っている。特に、「年表の読み取り」や「古代の生活や社会の様子」を問う設問では、正答率が7割を超えている。 ●「奈良時代の天皇の名称」や「室町時代に起こった戦乱の名称」の正答率は、県平均、市平均よりも下回っており、時代によって基礎知識の定着に偏りが見られる。	・各単元において、教科書の重要語句や授業内容をまとめたノート、ワークブックを再度見直しさせ、小テストを実施することで、基礎的・基本的な事項の確実な定着を図りたい。 ・地理的分野と同様に、教科書や資料集に掲載されている資料を的確に読み取る活動を充実させるとともに、その事象について考えたり、自分の言葉で表現したりする力を身に付けさせる。また、デジタル教科書など、ICT機器を有効活用し、視覚的に事象をとらえさせることで、基礎的知識や技能を身に付けさせ、思考力や表現力の向上に努めたい。 ・単に知識を学ぶためだけでなく、学びを通して、歴史的なものの見方や考え方を身に付け、主体的により良い社会をつくらうとする態度を育成していきたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	58.8	55.4	55.0
	図形	56.6	49.8	49.2
	関数	65.1	59.6	58.0
	資料の活用	48.3	38.3	38.9
観点	数学的な見方・考え方	56.0	50.0	49.3
	数学的な技能	61.1	56.7	55.7
	数量や図形などについての知識・理解	53.9	47.0	47.9



★指導の工夫と改善

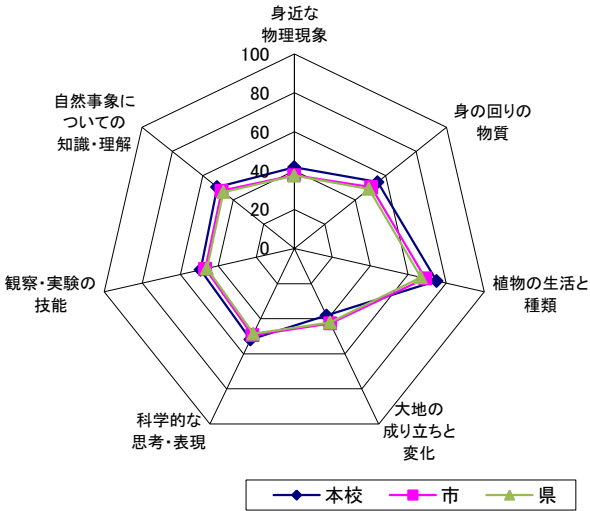
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正答率は県平均を3.8ポイント、市平均を3.4ポイント上回っている。 ●「与えられた数の中から自然数をすべて選ぶ」設問での正答率は4割に満たず、県平均を9.7ポイント、市平均を5.4ポイント下回っている。また、「与えられた式で基石全部の数を求められる理由を書く」設問の無答率が23.8ポイントとかなり高く、文字式を正しく読み取りその説明を書くことを苦手とする傾向が見られる。	・学習内容を定着させるために、授業の最初または最後に小テストや確認テストを行うなどして、生徒の理解状況を把握した上での指導を今後も継続していきたい。 ・協働的な学習を展開する中で、多様な見方・考え方ができる課題を意図的に設定したり、分かったことや発見したことを少しでも書くように意識付けを行ったりして、自分の考えを書かせた後に発表させることで、考えをまとめる力と相手に伝える力を育成したい。
図形	○正答率は県平均を7.4ポイント、市平均を6.8ポイント上回っている。また、「直方体にかけたひもを展開図にかき入れる」設問での正答率は81.5ポイントと高く、県平均を16.0ポイント、市平均を14.8ポイント上回っている。 ●「 $\triangle ABP = \frac{1}{2} \triangle ABC$ となる点Pを作図する」設問での正答率が3割程度の留まっており、この分野の中では一番低い。	・映像を利用した授業も増やすとともに、具体物を使った操作活動や実験を通した学習活動を可能な限り展開することで理解を深めさせ、問題練習で学習内容の定着を図ってきたい。 ・作図と三角形の面積の問題は、面積は何が分かると求められるかを考えさせたい。また、作図方法については、基本となる作図の意味とともに作図方法を繰り返し指導することで理解を深めさせたい。
関数	○正答率は県平均を7.1ポイント、市平均を5.5ポイント上回っている。また、「与えられた座標に合う点の位置を選ぶ」設問の正答率は8割を超えており、この分野で一番高い。 ●この分野の中で最も正答率が低かったのは、「水槽の深さが36cmになる迄の時間の差を求める」設問で、無回答率は14.9ポイントとかなり高い。	・関数関係を式で表すこと、グラフをかくことや読み取ることなど、問題練習を通して基本的な知識や技能を身に付けさせたい。 ・身近にある事象を例に、表、グラフ、式のそれぞれの良さや相互関係を意識付けながら、事象にある関数関係について理解を深められるように指導し、そこから派生または類似した問題を練習させることで、表、グラフ、式の活用の仕方を身に付けさせたい。
資料の活用	○正答率は県平均を9.4ポイント、市平均を10.0ポイント上回っている。 ●「一方の選手を選び、選んだ理由を説明する」設問での正答率は2割に満たず、県及び市平均とほぼ同じ結果であるが、理由を説明する問題を苦手としている傾向が見られる。	・1つの資料を基に意図的、継続的に課題設定と解決を繰り返しながら、階級値、ヒストグラム、相対度数、最頻値、中央値、平均値、範囲などの基本用語の意味と使い方を理解させたい。 ・2つこととを比較するような資料を用意し、個人活動、グループ活動、全体での話し合い活動へと段階的に発展させる展開を行うことで、比較検討の仕方を身に付けさせたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	41.8	37.6	37.5
	身の回りの物質	54.7	50.5	49.1
	植物の生活と種類	75.0	69.0	66.6
	大地の成り立ちと変化	38.2	42.7	42.2
観点	科学的な思考・表現	51.8	49.4	48.5
	観察・実験の技能	49.3	46.8	45.9
	自然現象についての知識・理解	50.6	47.6	46.5



★指導の工夫と改善

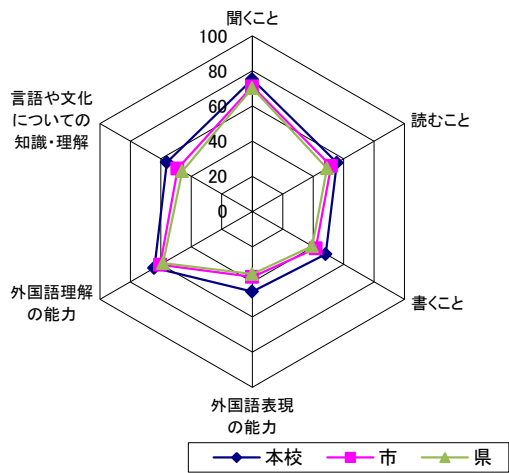
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○正答率は県平均を4.3ポイント、市平均を4.2ポイント上回っている。特に「グラフや表から、おもりの重さを求める」設問の正答率は7割を超えている。 ●「物体により机にはたらく圧力」や「物体が机を押す表し方」に関する設問の正答率が3割未満と低い。	・多くの生徒は観察・実験に意欲的に取り組んでいるので、今後は物理現象をより身近なものとして捉えさせたい。特に、力や圧力の単元では、実験で得た結果を、日常生活にも関連させて考えさせることで、一層興味関心を高めるとともに、圧力を求めたり、力の単位に直したりする計算問題を繰り返し練習させ、理解の定着を図りたい。
身の回りの物質	○正答率は県平均を5.6ポイント、市平均を4.2ポイント上回っている。特に「温度変化による粒子の運動」に関する設問の正答率は8割を超えている。 ●「水溶液の質量パーセント濃度」に関する設問の正答率が4割未満と低い。	・ガスバーナーやメスシリンダーの操作方法など、実験器具の操作方法や順序を正しく身に付けさせたい。 ・物質は粒子からできているというイメージを持たせるために、モデルや図を用いる。そのイメージをもとに水溶液の濃度についての概念を形成させるとともに、計算式や語句、性質など、基本的な学習内容の定着を図りたい。
植物の生活と種類	○正答率は県平均を8.4ポイント、市平均を6.0ポイント上回っている。特に「食物の生活と種類」に関する設問の正答率は8割を超えている。 ●「顕微鏡の適切な操作方法」に関する設問の正答率が約6割で、県平均を4.1ポイント、市平均を3.9ポイント下回っている。	・観察や実験に意欲的な生徒が多いので、今後は、応用力や思考力を高めるために、言語活動の充実を図りたい。 ・観察や実験の技能については、パフォーマンステストを生徒同士で行ったり、考察に時間をかけることで、自分の考えを持たせるだけでなく、積極的に他と意見交換させたりすることで、より理解を深めさせたい。
大地の成り立ちと変化	○「示された情報をもとに、柱状図を推測する」設問の正答率は、県平均を1.6%、市平均を1.5%上回っている。 ●この領域の正答率は県平均を4.0ポイント、市平均を4.5ポイント下回っている。特に、「岩石のつくり」に関する設問の正答率が3割未満と低い。	・活発に活動している火山や、地震、地元の大谷石など、身近な話題に触れ、興味・関心を高めさせるとともに、岩石などの観察の際は、それらの岩石がどこで、どのようにしてできたものであるかをしっかりイメージできるような教材を工夫し、岩石のつくりや分類の仕方など、基礎的・基本的な内容の定着を図りたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	75.2	71.1	70.2
	読むこと	55.5	51.8	49.1
	書くこと	48.3	41.8	39.4
観点	外国語表現の能力	45.5	37.1	35.5
	外国語理解の能力	64.3	60.4	58.5
	言語や文化についての知識・理解	56.0	49.0	46.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○正答率は県平均を5.0ポイント、市平均を4.1ポイント上回っている。特に「単文を聞き取る」設問は9割、「まとまりのある英語を聞き取る」設問は8割と正答率が高い。 ●「絵に関する英文を聞き取る」設問の正答率は、県平均を0.4ポイント、市平均を1.5ポイント上回っているが、正答率は4割に満たず、この領域の中で一番低い。	・簡単な英語や短文であれば、内容を理解することができるが、対話文や長文の聞き取りになると、理解できない生徒がいる。授業で、会話のやりとりを続けられるようにしたり、ある一定の英文を聞いて、どのようなことを言っているかを大まかな内容を理解したりする活動を取り入れていきたい。 ・英文使用場面をイメージさせ、ピクチャーカードやデジタル教科書の動画を用いて内容についての問答を積極的に取り入れたい。また、理解する能力の向上に努めたり、単元末に行うリスニングテストを活用したりして、聞き取りの定着に努めたい。
読むこと	○正答率は県平均を6.4ポイント、市平均を3.7ポイント上回っている。特に「英語の案内などを読み取る」設問の中の「学校でできる運動を読み取る」選択式の設問の正答率は約8割と高い。 ●「対話文から読み取る」全ての選択関の設問で、県及び市平均を上回っているが、長文の読み取りに関する生徒の理解は二極化傾向にある。	・教科書の音読を繰り返す行うことで、文の中で出てくる代名詞は何を指しているかを考えながら読むことで、内容をより理解できるように工夫していきたい。 ・長文の問題は、単語や文法の理解の問題も含まれているため、単語や熟語を覚えるとともに、ワークやプリントを使って長文の読み取り問題を多く解く等、練習量を増やしていきたい。
書くこと	○正答率は県平均を8.9ポイント、市平均を6.7ポイント上回っている。 ●「語順の理解」「英作文」に関する全ての設問において、生徒の理解は二極化傾向にある。特に「場面や条件に応じた英作文」「テーマに基づく英作文」での無回答率が他の領域に比べて多い。	・文法や語順の理解の定着を図るために、熟語や基本文を覚えさせ、基本文を使って、自分のことを英文で表現する練習をさせていきたい。 ・単元のまとめとして、あるテーマに沿った英作文を3文書けるよう練習したり、習った単語や文法を使って適切に英文で表現したりできるよう支援していきたい。また、英作文を書く力については個人差が大きいので、TTの時間を有効に活用し、ALTに助言してもらったり、辞書の使用を促したりしながら、個別の指導の充実を図っていききたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年 生徒質問紙調査

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【良好な状況が見られた項目】
○本校の肯定的な回答の割合が9割を大きく上回っている項目は、「毎日朝食を食べている。」「学校の決まりを守っている。」「家で学校の宿題をやっている。」「国語は将来のために大切だと思う。」「英語は将来のために大切だと思う。」「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる。」であった。
○落ち着いた態度で授業を受けており、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」についての肯定的回答割合が県平均を10.5ポイント、市平均を10.2ポイント上回っている。
○積極的に自主学習に取り組み、毎日自主学習ノート提出している生徒が多く、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」についての肯定的回答は、県平均を14.1ポイント、市平均を8.9ポイント上回っている。今後は、内容が偏らないように教科担任から適宜、家庭学習の内容や方法など紹介するなど、生徒の意欲が継続するような指導を心掛けていきたい。
○「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている。」についての肯定的回答は、県平均を11.8ポイント、市平均を9.1ポイント上回っており、身の周りの用具を有効に活用して、主体的に学ぼうとする姿勢が見られる。
○「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている。」についての肯定的回答は、県平均を8.1ポイント、市平均を11.7ポイント上回っており、授業の中で振り返る活動を取り入れ、自分の考えがどのように変わったのか自分の言葉で表現させるなど、自分の学びについて考えさせてきた成果が見られる。
○「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している。」についての肯定的回答は、県平均を9.3ポイント、市平均を9.1ポイント上回っており、「言語活動の充実」を目指した授業に取り組んできた成果だと思われる。
【課題が見られた項目】
●「将来の夢や目標をもっている。」についての肯定的回答は、県平均を3.6ポイント、市平均を0.8ポイント下回っている。本校では、キャリア教育の一つとして、1学年でハローワークと連携した自分の職業適性を考える「ドリームプラン教室」や様々な職種の方の講話を聞く「ドリームデザイン教室」を行っているが、今後は、学んだことを自分の夢や目標につなげるよう、実施内容を見直したり、事前事後の活動を工夫したりしていきたい。
●学力定着度の高いグループと低いグループの差が顕著であった項目は「自分は勉強がよくできる方だと思う。」であった。「難しい問題にであうと、よりやる気がでる。」の差は40.4ポイント、学習方策に関わる項目においても、差が25ポイントであった。自分の良さを発揮したい気持ちがあっても行動に移せない生徒の学習定着度が低いことから、今後は、少しずつ課題の難易度を上げたり、粘り強く取り組めるよう支援したりしていきたい。
●「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。」についての学力定着度の高いグループと低いグループの差は30.7ポイントであった。テストの結果を活かして学習内容の確認をすぐ行っている生徒の学力定着度は高いことから、誤答対策ノートの作成などの指導を継続していきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自ら進んで表現できる生徒の育成	①基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着 ②主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善	①各教科における「基礎」及び「活用」の平均正答率が県及び市平均を上回ったり、同程度であったりすることから、基礎的・基本的な知識及び技能は身に付いていると思われる。 ②「クラスの友達との間で、話し合う活動や意見を最後まで聞くことができている。」という項目の肯定的回答は9割を超えているが、習得・活用・探求という学びの過程の中で、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら問題を見い出して解決策を考えたりする「深い学び」の実現には至っていない。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
より高い目標に向けて意欲的に取り組む姿勢	自己有能感の向上	他者及び自己評価を通じて自己を肯定的に感じたり、達成感の積み重ねを通して課題に挑戦する意欲や解決する力を身に付けさせたりする。